

ふたなり化が不要な方や、不慣れな方は、本編を飛ばして、

01「前説」→02「導入」→04「解除」の順で聞いて下さい。

03「本編がないので、ふたなり化はせず、催眠でトランス状態になるところまでの構成になっています。

ふたなり化催眠のためには、

01「前説」→02「導入」→03「本編」→04「解除」の順で聞いてください。

慣れたら01「前説」は不要です。

以上、宜しくお願いします。

## 前説

こんにちは。

今日はあなたに、催眠状態になっていただこうと思っております。

まずは、準備と致しまして――心地よく催眠に掛かっていただくために、リラックスできる環境を整えましょうか。

催眠に重要なのは、リラックスできる環境ですからね。

といっても、特別な準備は必要ありません。

ベストなのは、おやすみするときの状態ですね。

温かいお布団に入って、身体を伸ばし、

ゆったりとできる状態がよいですね。

衣服も、身体を締め付けるような服ではなくて、

パジャマのような格好がよいと思います。

気温はどうでしょう。熱すぎたり、寒すぎたりは、しませんか。

あなたの集中を乱すような、とつぜんの邪魔が入ったりすることは、ありませんか。

部屋の灯りは暗くしたほうがよいですね。

そうしたら、眼を閉じて、外からの刺激をできるだけ遮断しましょう。

大丈夫ですか。

まだ準備ができていない場合は、いったん停止して、

リラックスできる環境を整えてくださいね。

はい。

それではあらためて、あなたを催眠の世界にご招待します。

催眠はけっして怖いものでも怪しいものでもなく、

とても心地よく、嬉しくて、幸せな気分になれるものだど、知っていただけたらと思います。

慣れていない方は、本編を再生しないようにしていただくと、

催眠という導入部、

いわゆるトランス状態におちるところまでしかやりませんので、

危ないことはいっさいありません。

入門のつもりで、安心して、落ち着いて、

私の声に耳を傾けてくださいね。

最初のうちは、どうしても緊張してしまつて、

思うように催眠にかかれないこともあるかもしれません。

それでも何度か試しているうちに、

あるとき、すっ……と催眠にかかれることができます。

だから、最初からうまくかかれなくても、  
がっかりしないでくださいね。

ちよつと試してみるような気持ちで、聞いていただければ幸いです。

## 導入

前置きが長くなってしまいました。  
ではさっそく始めていきましょう。

まずはかるく深呼吸してみましようか。

はい、すって……

はいて……

すって……

はいて……

ゆったり、ゆったりと呼吸をします……

はい。そのままのリズムで、普通の呼吸を続けながら、聞いてください。

息を吸って、新鮮な空気が肺に満ちると、すうっと気分が落ち着いていきますね……  
そして、息を優しく吐き出すと、身体から力が抜けて、リラックスしていきますね……

呼吸を繰り返すたびに、徐々に、徐々に、意識がとろっとしてきますね。  
でも、私の声はよく聞こえる。不思議な状態ですね。

こうしてリラックスしていただくことで、あなたの心に直接私の声が届くようになります。  
す。

身体と、心が、少しずつ、別れていきますよ。

繰り返しますが、これは決して怖いことはありません。

リラックスしているあなたは、今、とても心地いい状態にあると思います。  
それがもっと心地よく、そして幸せな気分になりますからね。

さあ、もっと意識を肉体から解き放って、より深い催眠の世界に行きましょうね。

穏やかに呼吸していることで、あなたの身体はすっかり力が抜けていると思います。

ここから、さらに脱力していきましょうか。

まずは右足。右足から。

あなたの右足が、何だか温かいものに包まれていると想像してください。

たとえば、ぬるめの温泉。

ぬるめの温泉に右足が浸かって……ぼかぼかと温まって……とろけて消えてしまいそうなほど心地いい……力が入らなくなる……

ほら……爪先からどんどん力が抜けて、身体が存在が薄れていきますよ……

怖くないですよ……リラックスして気持ちいいまま、右足から力が抜けていきます……

…

爪先……踵……足首……ふくらはぎ……膝……どんどん力が抜けていきますね。

温かい温泉のなかでいーっぱい脱力しちゃいましょうね。

膝からさらに上、太股……脚の付け根まで。もう力が入りませんね。

無理に力を入れなくて良いですよ、そのまま心地よさに身を任せてください。

ほら次は左足ですよ。左足も温泉に浸かって、力が抜けていきます……

心地よく力が……ふわーっと……

爪先……踵……足首……ふくらはぎ……膝……太股、脚の付け根。

両脚ともにすっかり脱力してしまいましたね。

ふわふわと温かくて、ひたすら心地いい。

このまま両手もリラックスしていききたいですね？

はい次は右手です。右手も温かい温泉に包まれて、ふわっとふわっと力が抜けていきます

……

中指の先端から徐々に徐々に……手のひら……手首……すーっと力が抜けて……

肘……二の腕……肩のほうまで。心地いいですね。

もちろん次は左手も心地よくなっていきましょーうね。

ほら、もう、私が誘導するまでもなく……

指先……手のひら……どんどん力が抜けて……

手首……肘……二の腕……肩。両手両脚がぐーったり。お布団に沈み込んでしまうようですごく気持ちがいいですね。

もう待ちきれないほどですね。胴体も脱力していきますよ。

暖かな良い心地に包まれて……

腰からしゅーっと力が抜けていきます……

お腹からも……胸からも……

首の下、首の付け根……がーっくりと力が抜けてしまいましたね。

これでもう残っているのは頭だけですね。頭も気持ちよく脱力していききたいですね。

顎から力が抜けて……頬……鼻……目……おでこ……そして頭全体から、かくーっと力が抜けて……

これであなたはもう意識だけの存在になってしまいました。

その意識も、私の言葉に誘われるように、深い、深いところに、深く温かくて心地いいところに、ずぶずぶと沈んでいきます。

意識が深いところに沈んでいく……すうーっと落ちていく……この感覚、とても気持ちよいですね。

幸せな気分になってしまいますね。どんどん意識が深く深く落ちていく。

もうあなたの心には、外からの刺激は一切届かないですね。私の声だけが静かに響きます。私の言葉だけが届く、あなたの深い奥底まで、意識が落ちて……落ちて……落ちて……落ちて……落ちて……

これから私が10から0までカウントダウンします。カウントダウンがすすむごとに、あなたの意識は更に深くて温かくて気持ちの良いところに落ちていきますよ。幸せになれるですよ。

10……

9……

8……

7……

ほらほら意識がどんどん落ちていく……

6……

5……

4……

3……

意識が深いところにいくのはとっても幸せ……

2……

1……

……

0°

ほうら。

あなたの意識は今とっても深くて気持ちよいところに居ますね。

ここはとってもとっても幸せですね。

でももっと幸せになってしまいたいそうですね。もっと深いところに行ってみましょうね。

私がまた10から0までカウントダウンします。

0 になるころにはあなたの意識はとっても深くてとても気持ちのよいところに行けますからね。

10……

9……

8……

7……

6……

5……

4……

4……

4……

4……

3° 2° 1° 0°

ほら意識がしゅーっと深く深く落ちて落ちて落ちて落ちて落ちて落ちて落ちて……？

とても、とても。とても幸せ。すごく気持ちがいい。

催眠の世界。

催眠状態。

すごく気持ちのいい状態に、なれましたね。

もう、とーっても幸せですね。こんなに深いところにまで意識が落ちていったんですから、それはもう幸せですね。良かったですね。

私の言葉を素直な気持ちで聞くことができますね。とっても幸せですものね。はい。

時間になったら、私が起こしに来ますから、

しばらくのあいだ、この幸せな気分を味わっててくださいね。

ゆったりと、催眠の気持ちよさを覚えていってくださいね。

本番

はい。

では、いったん、意識を覚醒させましょうか。

大丈夫ですよ、このトランス状態には、またすぐ戻って来られますからね。

またすぐに、幸せな気分になることができますからね。

安心して目を覚ましてくださいね。

私が三つ、数を数えたら、あなたはぱっちりを目を覚めますよ。いいですね。

三つ数を数えたらあなたは目を覚めます……

ひとつ……

ふたつ……

みっつ！ はい！

おはようございます。気持ちよく目を覚ますことができましたね。

ですが……？

私のゆっくりした声を聞いていると……？

だんだんと手足から力が抜けていって……？

意識がふわっとふわっとほらまたすぐに気持ちよくトランス状態になりますよ。

だってすごく気持ちがいいですからね、逆らうことなく、素直にしゅーつと意識が落ち

ていきます……

私がカウントダウンすると、

意識がどんどん落ちていきますよ……

10……

9……

8……

7……

6……

5……

4……

3.2.1.0°

意識がひゅーつと落ちて落ちて落ちて落ちて落ちていって、

また気持ちいい状態に……

ふわふわしてぼかぼかしてきましたね……

おかえりなさい。

\*

はい。気持ちいい状態になりましたね。トランス状態になりましたね。私の声がよく聞こえますね。私の言葉を、素直に聞くことができますね。

さて。

私の言葉を聞いていると、あなたの股間のあたりが、むずむずとしてきましたね。股間の、少し上の辺りが。むずむず、むずむずと。

何だか、あなたの肉体が、変化しようとしているようです。

この感覚は、ちょっとくすぐったいですが、けっして、イヤな感じはしませんね。むずむずむずむずと、あなたの身体に変化が訪れますよ。

ほら。徐々に。あなたの股間の上の方が、むくむく膨らんできて……

敏感な神経が集まって……

肉として形作られていきます……

新たな肉体の一部分ができていきます……

それは根本の方から少しずつ膨れあがって、上の方に垂直に伸びていきます……

あつ。と気がついたときには、むずむずはいつのまにかおさまっていて。

あなたの股間には、それはそれは、立派な、おちんちんが生えてしまっていました。ええ、はい、そうです、おちんちん。

カリがくびれていて、先端には尿道が開いていて。

あなたの想像したとおりの、理想的なおちんちんが生えていますね。

だいたい15cmぐらいの、肉の棒が、硬くなって立ち上がって、その存在を主張していますね。

そう、あなたには、おちんちんが生えていますね。

ほら。そう自覚したとたんに……

むず痒い甘ったるい感覚が、股間を中心に、おちんちんを中心に、体中に拡がっていきま  
すね。

繊細で敏感な神経の集まりであるおちんちん。

これに触れたら、とっても気持ちいいでしょうね。

きつとものすごく気持ちよくて、びくびくびくって痺れてしまうかもしれませんね。

でも、今はトランス状態だから、身体を動かすことができませんね。

触りたくて触りたくて仕方ないのに、おちんちんに触れませんね。

そう考えたらどんなむずむずとおちんちんが疼いてきてしまいますね。

あなたの硬く張り詰めたおちんちんが、触って欲しそうにびくびく震えていますね。

早く触りたい。触りたい。触って気持ちよくなりたい。焦らされたくない。生えたおちん  
ちに触りたい。

でも大丈夫ですよ、このあとじっくりとおちんちんに触れますからね。

あなたが起きてからも、このおちんちんは生えたままですからね。

ええ。そう。だってあなたにはこんな見事なおちんちんが生えているのですから。

起きたくらいで消えることはありません。

いいですか。私が三つ、数を数えると、あなたは目を覚まします。

目を覚まして、この、おちんちんの感覚は残ったままです。

目を覚まして、あなたには、立派で、そして、敏感な、おちんちんが生えていますよ。

いいですね。ではおちんちんが生えたまま、目を覚ましてみましょうね。

ひとつ。ふたつ。みーっつ！ はい！

おはようございます。

どうですか。今の気分は。まだ股間の辺りがむずむずしますか。

そうですね。だっておちんちんが生えていますからね。

思い出してみましよう。さきほど、トランス状態になったときに、

あなたの股間には、立派なおちんちんが生えていましたよね。

股間の肉がもりあがって、あなたの思い描く理想通りのおちんちんが生えていましたよ  
ね。

トランス状態だったせいで、触れなくて、もどかしい思いをしていましたよね。

だから今、それは当然むずむずしてしまいますよね。

でも、もう大丈夫ですよ。いくらでも、おちんちんに触ることができますよ。

ほら、手をそっと股間に近づけてみましょう。

そこにおちんちんがある感覚。手が、硬くて敏感なおちんちんに触れる感覚が、あります  
ね。

触ったらびりっと痺れるような快感がほとばしってしまうかもしれません。

なにせこんなに立派なおちんちんですからね。

さあ、おちんちんを触ったまま、今度は、優しく、握るようにしてみましよう。

あなたの股間に生えたおちんちんを、軽く握ってみましよう。

こうしているだけで気持ちいいですね。

手のひらの中に、おちんちんの存在感を感じますね。

さあ、これだけでは満足出来ませんね？

手を、上下に動かして、おちんちんをしごいてみましようか。

ほら。しこ。しこ。

手と指で、硬いおちんちんを擦るのって……すごく気持ちいいですね。

今まで得られなかった快感が、どーっと押し寄せてきますね。

むず痒くて切なくて、もっとももっといつい欲しがってしまうような、そんな快感ですね。

いいですよ、遠慮しなくて。

もっとシコシコしてみましようね。どんどん気持ちよくなってしまうましようね。

擦れば擦るほど、あなたのおちんちんは猛烈な快感をあなたに与えてくれますからね。気持ちよくなっちゃいましようね。

私の言葉に導かれるままに、あなたの手は勝手に動き始めて。

おちんちんの快感を貪るべく、しこしこ、しこしこと。

そして次第に手の動きは速くなっていきますね。

それに応じて、快感も強く、激しくなっていきますね。

ほらもっとしこしこしてみましようね。もっとおちんちん気持ちよくなりましようね。

せつかく生えたおちんちんですから、しっかりこの感覚を味わってみましようね。

ぜんぜん恥ずかしくなんてありませんよ、だって気持ちいいのですから、仕方がないですね。おちんちんの感覚、素直に受け入れてしまえますね。

ほら、しこしこしていると気持ちよすぎて腰が動いてしまう。

呼吸も速く、熱くなってきた、興奮して来てしまう。

それでも手の動きは止められない。おちんちんの気持ちよさが止まらない。

どんどん、どんどん気持ちよくなって……

おちんちんをしごいていると、快感の中に混じって、不思議な感覚が襲ってきますね。

何かが身体の奥底から込み上げてくる感覚。

下腹部から何かがやってきて、おちんちんの中を昇っていくような感覚。

そう。そうです。あなたは、今、射精しそうになっているのです。

熱くてどろどろした精子を、おちんちんの先から噴き上げそうになっているのです。

大丈夫ですよ、怖くないですよ。

未知の感覚ですが、すごく気持ちよくなれますよ。

身体の中に溜まっていたストレス、疲れ、ムラムラとした性欲が、

どろっどろの精子になって、今、おちんちんから噴き上がろうとしていますよ。

これを全部出せたらどれだけ気持ちいいだろうか。

どれだけすっきりするだろうか。

想像しただけで、たまらなくなってきましたね。早く射精したくなってきましたね。早くおちんちんイきたいですね。

そう考えると、ほら、おちんちんを擦る手つきが素早く激しくなっていますね。

もう今にも射精してしまいそうですね。おちんちんイッちゃいそうですね。精子漏れちゃいそうですね？

はい、はい、はい。私が今からカウントダウンしますので、それがゼロになったら、熱い精液がおちんちんから解放されますよ。おちんちんイッちゃいますよ。

それまで、どんどんおちんちんをコシコシして、気持ちよくなりましょうね。いーっぱい精子出して気持ちよくなりましょうね。

ゼロになったらおちんちんから精子がどばって出て気持ちよくイクことができますよ。

はい、3……

2……

1……

ゼロッ！

ほら。どびゅっ。どびゅっ。どびゅっ。

熱くてどろっとしたものが、あなたの身体の中を突き抜けて行って、おちんちんから勢よく噴き出ていきますね。もう、ものすごく気持ちいいですね。体中がビクビク震えて、おちんちんでイッちゃうことしか考えられませんね。おちんちんの快感に体中が酔いしれてしまいますね。

ほらほらまだ出ますよ。手の動きを止めてはいけませんよ。しごけばしごいた分だけ精子が出てきますよ。出せば出すほどおちんちん気持ちよくなりますね。とろけてしまいそうですね。

ほらどんどんどびゅどびゅと出る。びっくりするぐらいどびゅどびゅ出る。どこにこれだけ溜まっていたのかというほど出る。そしてそれがすごく気持ちいい。おちんちん凄く気持ちいい。射精するのはとても気持ちいい。最高に気持ちいい。おちんちん射精気持ちはいい……ほらまだまだ気持ちいいお汁がおちんちんの先端から出る。出る。

どびゅっ。どびゅっ。どびゅうっ……

はい。上手に、おちんちんイクことができましたか。あまりの快感の強さに、ぐったりして、もう何も考えられませんか。

それは良かったですね。すごく幸せな気分ですね。いいですよ、そのままぐったりと身体  
の力を抜いて、心地よい疲れに身を任せてくださいね。とーっても気持ちよかったですも  
のね。気怠くて、もう何もできませんよね。

そうして身体の力を抜いて、リラックスしていると……

先ほどと同じように、意識がふわーっとなって……

また深いところにすーっと落ちていく……落ちていく……落ちていく……

どんどんどん意識が落ちて先ほどと同じような幸せな感覚になっていきますね……

はい、また気持ちいいトランス状態になりましたね……

## 解除

それではいいですか、よく聞いてくださいね。

これで、もう、あなたにかけた催眠は、すべて解けます。

すべての暗示がなくなります。あなたの股間にあったおちんちんは、綺麗さっぱり、消えてなくなりました。

私がみつつ数を数えたら、あなたのおちんちんはなくなって、普段通りに戻って目が覚めますよ。すべての暗示が消えて、とってもすっきりした気分で目を覚ますことができますよ。

ひとつっつ。

ふたーっつ。

みっつ！ はい。

おはようございます。

すっきりと気持ちよく目覚めることができましたね。

どうでしたか、おちんちんの感覚、味わえましたか。おちんちんの体験をすることができましたか。

上手く催眠にかかれたのであれば、おめでとうございます。

上手くかかれなかったのであれば、ごめんなさい。

ですが、何度か聞いているうちに、ある時、すっ……と掛かれるようになることもあるかと思えますよ。

それではまた、次の機会にお会いできればと思います。

おつかれさまでした。